

関西学院大学 研究成果報告

2026年 5月 19日

関西学院 院長殿

所属：国際学部
職名：教授
氏名：三宅康之

以下のとおり、報告いたします。

研究制度	☒ 関西学院留学 長期（滞在国：台湾） ☐ 関西学院留学 短期（滞在国： ） ☐ 宣教師研究期間 ☐ 関西学院外留学（滞在国： ）
研究課題	台湾版開発主義の終わりの始まり—国際関係史からの再検討
研究実施場所	中央研究院台湾史研究所（中華民国・台湾）
研究期間	2025年4月1日 ～ 2026年3月20日（12ヶ月）

◆ 研究成果概要（2,500字程度）

上記研究課題に即して実施したことを具体的に記述してください。

初めての学院留学（長期）の機会を得て、2025年4月1日から2026年3月20日までの約一年間、台湾の最高学術研究機関である中央研究院の台湾史研究所にて訪問学者として自由な研究活動を行うことができた。不在によりご迷惑をおかけした関学の関係者各位および受け入れてくださった台湾史研究所の関係者各位にこの場を借りて感謝を表明したい。

今回の留学の目的は、「台湾版開発主義の終わりの始まり—国際関係史からの再検討」という研究題目名が表しているとおり、台湾において、経済開発をもって独裁を正当化する開発主義体制がいかに終わったのか、ないし民主化がいかに始まったのか、という問題に取り組むことであった。具体的には「独裁制の終わり／民主化の始まり」として、1949年5月の公布以来三十八年間続き、台湾の独裁制の象徴となっていた長期戒厳令の解除の問題に焦点を絞って研究を進めた。

本来、中国政治外交を中心に研究してきた本報告者が台湾での台湾内政研究に挑戦した主な理由は、①習近平政権の下、中国国内の研究に限界があること、②冷戦末期に関する科研費の課題で東アジアに関する分析を分担していたこと、③台湾側の資料公開が急速に進んでおり、新しい資料を用いた研究の可能性を探りたかったこと、などである。

台湾の民主化の開始からすでに三、四〇年経過した今日、「独裁制の終わり／民主化の始まり」というテーマは平凡なようであるが、先行研究は意外なほど少ない。資料アクセスの問題以外にも、台湾の政治外交史研究では、冷戦史研究は個別には行われてきたものの、組織としては中央研究院台湾史研究所にせよ近代史研究所にせよ、これから本腰を入れるという段階で、ましてや冷戦末期については未開拓な状況にあるのが実情である。さらに、当時の指導者の蔣経国という評価が分かれる人物について取り上げることは政治的に敏感であることも先行研究が少ない一因と考えられる。現に従来の研究では、蔣経国の英邁なリーダーシップを賛美するか、逆に台湾人の尽力を英雄視するかの二項対立的状況が続いており、近年、より客観的なアメリカからの圧力を強調する研究が主流となっていた。

これらに対し、本研究では、台湾、アメリカ以外に、同時代に進行していたフィリピンや韓国の民主化、改革開放に転じた中国の自由化など、東アジア地域の変化との連動性を視野に収めて再検討した。帰国直前の三月四日に行われた講演会では、東アジア周辺地域の影響に焦点を当てて報告したところ、幸い、二時間の枠を二十分ほど超過するほど質問が多数寄せられ、かつホストでもある鍾淑敏所長から高い評価を得ることができた。

以上の留学課題の遂行以外に、今回の留学の目的として、次の諸点を意識していた。

- ①一年間を通じて台湾での生活を経験し、台湾人の暮らしのリズムや常識を理解すること。
- ②台湾華語を学び、自身の中国語レベルを少しでも引き上げること。
- ③台湾各地を訪問し、台湾の歴史・文化・地理に関する理解を深めること。
- ④台湾各地の大学・研究機関の研究者と交流し、台湾での研究状況を把握すること。
- ⑤可能な限り史資料・文献を収集し、今後の研究の準備を進めること。
- ⑥台湾の政治外交・経済問題に関する最新情勢をフォローし、台湾内部のさまざまな見解を把握すること。
- ⑦これまで諸般の事情により先送りしてきた単著の執筆を進め、出版にこぎつけること。

それぞれについて得た成果についても振り返っておきたい。

①中華圏における一年を通じた滞在は香港で経験していたが、農業の盛んな台湾は市場に並ぶ農産物の変化も明確で興味深かった。宿舎のある地域での神事も何度か見聞し、道教に関する知識も深めることができた。

②台湾華語は中国大陆の「普通話」とは正体字・簡体字の違い以外にも、発音・単語・文章表現等々さまざまなところで異なることをあらためて経験した。個人的な台湾華語レッスンを通じて発音・単語・文章表現を学ぶことができた。

③これまで台北・台中・高雄など大都市と太魯閣など観光地しか訪問したことがなかったが、今般（離島と山地、最南端を除く）台湾島を一周し、見聞を広げることができたのは大きな収穫であった。各地では日本統治時代の土地区画や史跡が維持保存されており、歴史の重み、つながりを実感した。

④中央研究院での自分の報告、シンポジウムなどを通じて知り合った研究者と交流を深めることができたのも幸いであった。大学事情・研究環境などさまざまな話を伺ったが、少子化問題とそれに伴う留学生の獲得競争は身につまされた。

⑤台湾では現在の民主進歩党政権がいわゆる「移行期正義」の立場から、国民党の独裁体制の下で発生した白色テロなど過去の清算に努めており、その一環として1980年代までの資料公開が急速に進められている。本報告者も史料請求をかけたところ、期限内に全部公開され、恩恵を被ることができた。資料集なども続々と出版されており、購入を続けたい。

⑥周知の通り、「台湾有事」の可能性について世界的に注目されているが、現地ではさらに細かい問題が日々生じており、目が離せない状況であった。とくに2025年夏の「大罷免運動」や早くも始まった2026年11月に行われる統一地方選挙の前哨戦は興味深かった。

⑦二〇年余り研究を重ねてきた中国・台湾の国交樹立問題について、ここ数年間、単著としてまとめ、出版することが課題であったが、ようやくまとまった時間がとれたことで、原稿執筆、内容整理、そして出版にこぎつけることができた。今回の留学の最大の副産物であったといっても過言ではない。なお、拙著に関心を持たれた中央研究院近代史研究所の黄自進研究員から、同研究所で報告するよう求められ、日本よりも先に台湾で自著の報告を行うこととなった。報告後、拙著について「台湾でこそ読まれるべき」とであると評価していただいたのは望外の喜びであった。

今後は台湾から大学教員を海外客員教員として本学に受け入れるなど、交流を深めたい。そして次の学院留学の機会が頂ければ台湾を再訪し、交流範囲を広げたい。不安材料には事欠かないが、台湾の将来が明るいことを祈るばかりである。

以 上

提出期限：研究期間終了後2ヶ月以内

提出先：研究推進社会連携機構（NUC）

※関西学院留学は所属長を経て、宣教師研究期間の大学教員は学部長及び学長を経て院長に、高中部教員は各部長及び高中部長を経て院長に提出してください。

◆研究成果概要は、大学ホームページにて公開します。研究遂行上大学ホームページでの公開に支障がある場合は研究推進社会連携機構までご連絡ください。